

1:出席者

加藤^a・大西^b・岡部・片山・千葉・能登・吉田^c・大林^c・大塚^{c,d}

(^a:委員長, ^b:議長, ^c:オブザーバー, ^d:書記)

2:報告

- 大林は5月14日に室蘭工大のCOE研究員に着任した。今後もボランティアとして核データ活動に加わる。(大林)
- 評価システム構築の第一歩としてリクエストされた反応系のシミュレーションをするオンライン計算システムを大塚が開発した。(大西)
- 今年度のEXFORへの変換は10編が目標である。うち1998年分が6編、1999-2000年分が4編である。最初に形式的変換を大型計算機センターのシステムを用いて行なったものを手で修正するという方法をとっている。(吉田)

3:議論

- IAEA テクニカルミーティング
以下を昨年度の活動として報告する。
 - ・ NRDF コンパイル 15 編
 - ・ EXFOR への変換 30 編 (含更新)
 - ・ IntelligentPad による EXFOR/NRDF 利用システム開発
 - ・ 荷電粒子データの利用拡大検討 (NACRE のミラー構築計画)
 - ・ 変換システム作成
- 今年度の中心課題
大型計算機センターでの開発をワークステーション上で IntelligentPad や Web を活用した開発に移行する。
- NRDF コード追加
 - ・ TRNSF-SPIN: スピン移行
 - ・ JPNRIK などの追加を行なう。
- NRDF コーディング規則
 - ・ ウムラウト記号は無視する (例 \ddot{o} \ddot{o})。
 - ・ 上付き下付き文字に TeX 記法を用いることを認める (例 2_1^+ 2^{+}_1)

4:次回

2001年6月25日 17:30 より